

令和6年度 体力等調査の結果について

令和6年度に実施された体力等調査の結果について、杉並区立小・中学校の結果を報告します。

1 体力等調査の概要

実施	東京都教育委員会
名称	令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査
目的	東京都の児童・生徒の体力・運動能力及び生活運動習慣等の実態を把握・分析することにより、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
対象（方式）	都内公立学校的全児童・生徒（悉皆）
調査内容	・体力・運動能力に関する調査 ⇒握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルランまたは持久走、50m走、立ち幅とび、ハンド（ソフト）ボール投げ ・生活・運動習慣等に関する調査
調査時期	令和6年5～7月

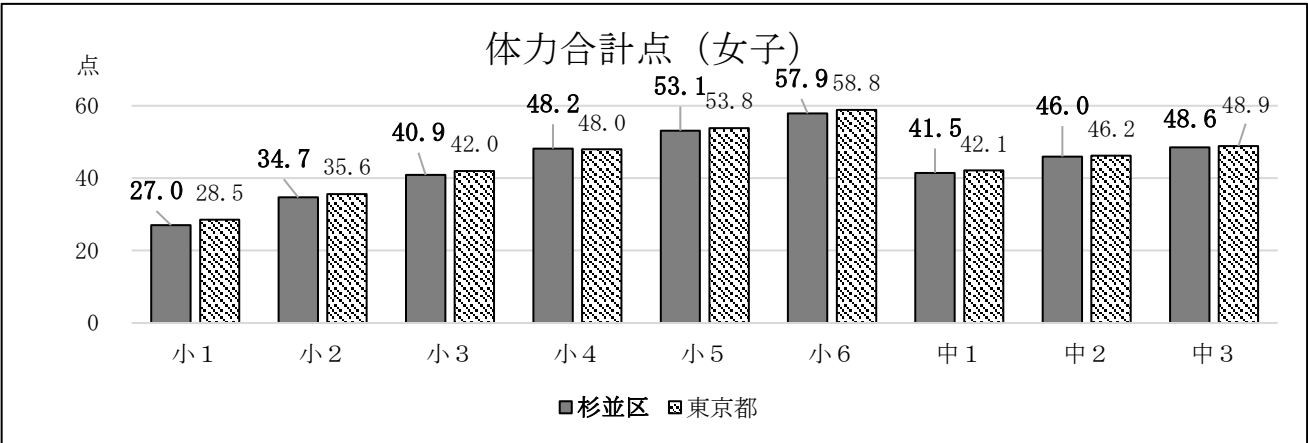
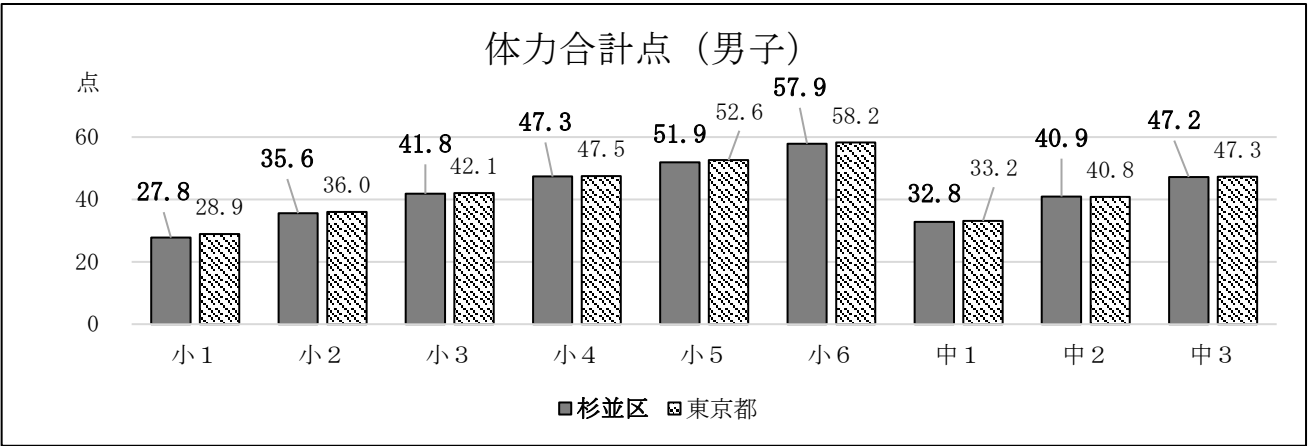
2 調査結果の概要

（1）令和6年度の「体力合計点」

令和6年度の杉並区立学校の小・中学生の体力合計点平均値と東京都の平均値（暫定値）を比較すると、若干下回っている。

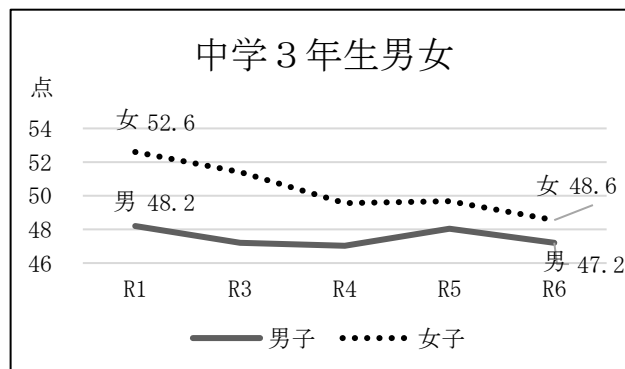
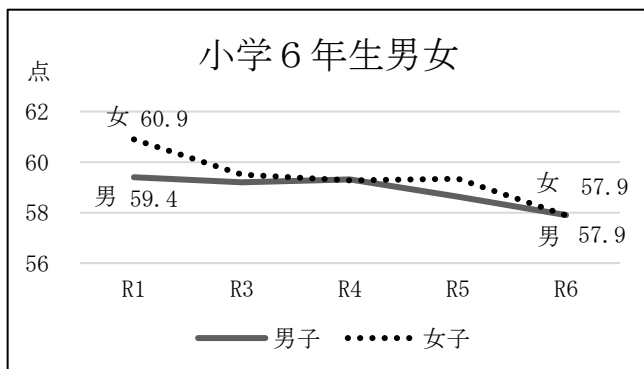
【体力合計点】上記調査項目の記録を得点換算し、全ての得点を合計したものである。

※小学校と中学校では得点換算方法が変わるため、比較すると中学校の数値が下がる。



(2) 「体力合計点」の推移（令和元年度から令和6年度）※ 令和2年度は、感染症の影響により希望制で実施した。

令和6年度における小学校第6学年及び中学校第3学年の体力合計点は、令和元年度と比較すると、男子はさほど変わりはないが、女子は低くなっている。



(3) 質問調査の結果（令和元年度と令和6年度の比較）

「体育・保健体育の授業は楽しい」と答えた児童・生徒は増加している。「運動やスポーツをすることは好き」と答えた男子は増加、小6女子は横ばい、中3女子は減少している。「運動やスポーツをほとんど毎日（週に3日以上）している」と答えた小6は増加しているが小6女子の数値は低く、中3は減少している。令和4年度からの設問「運動やスポーツは大切」と答えた男子は約8割、女子は約7割と高い数値である。

	体育・保健体育の授業は楽しい		運動やスポーツをすることは好き		運動やスポーツをほとんど毎日（週に3日以上）している		※運動やスポーツをすることは大切	
	R 1	R 6	R 1	R 6	R 1	R 6	R 1	R 6
小6男子	62.9	↗ 74.4	67.6	↗ 70.0	51.8	↗ 53.0		79.2
小6女子	53.3	↗ 57.5	55.4	→ 55.1	29.3	↗ 31.4		67.8
中3男子	53.1	↗ 63.0	58.9	↗ 68.5	60.8	↘ 57.6		77.9
中3女子	43.6	↗ 48.6	50.6	↘ 45.9	48.4	↘ 40.3		63.5

※この設問は令和4年度以降の調査において設定されたものである。

3 課題及び今後の取組

(1) 課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が緩和されたことで若干の回復は見られるものの、以前の水準までは戻っていないため、児童・生徒の更なる運動習慣の改善、体力向上へとつなげていくことが課題である。
- ・質問調査における「授業は楽しい」、「運動やスポーツをすることが好き」及び「運動やスポーツは大切」の割合から成果は見られるが、実際に運動をしている児童・生徒の割合が伴っていないことが課題である。

(2) 今後の取組

○学校

- ・児童・生徒自身が、運動やスポーツを行うことは、楽しさや喜びを味わうことに加え、体力の向上へとつながることを実感できるような授業づくりを継続していく必要がある。
- ・学校と家庭、地域が一体となって児童・生徒の良好な運動習慣の形成に努めていく必要がある。

○教育委員会

- ・各学校を訪問して体育授業や日常の取組の改善を支援する等、研修を充実していく。
- ・体力向上を研究課題として、令和7年度に教育課題指定研究校を指定する予定である。指定した学校においては、運動領域と保健領域との一層の関連を図った授業等の研究を進め、児童・生徒が運動と健康との関係性を深く理解し、実生活に生かす等の取組過程や成果を区立学校に広める。
- ・様々な専門職、関係機関、関係所管課と連携し、運動の楽しさや技術などを学ぶ*体力づくり教室の実施を継続する。また、各校の課題やニーズに応じて様々な専門職等を招へいする等、体力向上を目指した授業ができるように支援する。

*体力づくり教室：運動の楽しさや技術を専門家から学ぶ小学生を対象とした事業。